

Ⅱ 「自らの人生をたくましく切り拓き、社会に生かすことのできる人間」を育てるために

施策の進捗状況

| 区分 | 施策名 | 年度 | | | |
|----------------|-----------------------------|----------------------------|----------------|--------------------|-----|
| | | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 確かな学力の育成 | | | | | |
| 1 | 「学習チューター」派遣事業 | 準備 | 普通学級 (小)等 | 普通学級(小・中)、発達障害児支援校 | |
| 2 | 「その道の達人」派遣事業 | 準備 | 人材バンク設置→普及・活用 | | |
| 3 | 「あいち授業塾」推進事業 | H18～ 塾生と教員のグループを編成し実施 | | | 終了 |
| 4 | 授業名人活用推進事業 | H18～ 小中学校で実施 | | | |
| 個性を生かし個性を伸ばす教育 | | | | | |
| 5 | 「学びネットあいち」学習コンテンツの充実 | 学習コンテンツの一層の充実 | | | |
| 6 | 地域の教育力向上のための活動促進事業 | 準備 | モデル事業の実施 | | |
| 7 | 総合学科及び普通科コース制の設置 | 総合学科設置、コース制設置 | | | |
| 8 | 「愛知版スーパーハイスクール」の指定等 | 知と技の探検講座等、愛知版スーパーハイスクールの指定 | | | |
| 9 | ステップアップハイスクールの設置準備 | 設置準備 | | | |
| キャリア教育 | | | | | |
| 10 | リカレント教育推進会議 | 継続実施 | | | |
| 11 | 「あいち・出会いと体験の道場」推進事業 | 49.7 | 87.2 | 99.7% | 100 |
| 12 | 県立高校におけるインターンシップの推進 | 企業等の受入体制の整備、体験者の拡大 | | | |
| 特別支援教育 | | | | | |
| 13 | あいち発達障害者支援センターの充実 | 継続実施 | | | |
| 14 | 特別支援教育体制推進事業 | 連携協議会、巡回指導、研修の実施 | | | |
| 15 | 発達障害児童生徒対応通級指導教員の配置 | 7人 | 14人 | 24人 | 39人 |
| 16 | 特別支援教育コーディネーター、特別支援教育指導員の配置 | 準備 | 7人 | 18人：コーディネーター | |
| | | | 3人 | 4人：指導員 | |
| 17 | 新設養護学校、高等部分校の整備 | 桃花校舎 | みあい養護学校、本宮校舎等 | | 調査 |
| 外国人児童生徒等への教育 | | | | | |
| 18 | 外国人学校の各種学校設置認可審査基準の緩和 | H18～ 認可審査基準緩和 | | | |
| 19 | 多文化共生社会づくり推進事業 | ブレスクール等の継続実施 | | | |
| | | — | 日本語学習支援基金創設・活用 | | |
| 20 | 日本語教育適応学級担当教員の配置 | 継続実施 | | | |
| 21 | ポルトガル語等語学相談員の配置 | ポルトガル語5人 | | | |
| | | — | スペイン語2人 | | |
| 22 | 外国人生徒教育支援員設置事業 | 継続実施 | | | |

確かな学力の育成

子どもたちに、自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に行動し、問題を解決する力を身に付けさせるため、子どもたちが興味・関心をもつ分かりやすい授業と、それを支える教員の授業力を向上させる事業を実施し、市町村を支援していきます。

教員志望の大学生が教員の補助として行う、「学習チューター派遣事業」などの学習支援を実施し、基礎学力の定着を図りました。また、退職教員や地域の人材を活用して、子どもたちが興味・関心をもつ分かりやすい授業を展開しました。このほかベテラン教員や退職教員の持つ指導力を生かし、若手教員の授業力向上を図りました。

1 「学習チューター」派遣事業

施策の概要

子どもたちに基礎的な学力や生活力を身に付けさせるため、教員志望の学生等を「学習チューター」として活用し、きめ細かな指導や障害のある子どもへの支援を進め、学習上のつまずきの解消や学習意欲の向上を図ります。併せて、学生の将来の教員としての資質向上にもつなげます。

平成 20 年度の取組

- ・ 小学校：一宮市立赤見小学校始め 10 校
- ・ 中学校：瀬戸市立幡山中学校始め 5 校
- ・ 発達障害児支援校（小中学校）：一宮市立尾西第一中学校始め 20 校
- ・ 学習チューター派遣事業推進会議の開催
事業の成果と課題について協議

(1) 取組の成果

きめ細かな指導の成果として、教師と学習チューターが協力して支援を行うことで、一人一人の学習のつまずきへの対応時間を長くすることができ、基礎学力の定着が図られたこと、児童生徒一人一人に達成感を持たせることで学習意欲が高まったことなどがあげられる。

また、障害のある子どもへの支援については、学習チューターが子どもたちに優しく寄り添って指導したことで、子どもたちが安心し、落ち着いて学習することができた。

(2) 今後の課題・方向性

きめ細かな指導により、児童生徒の基礎学力の定着や学習意欲の喚起を図る必要がある。また、児童生徒をより効果的に支援していけるよう、教師と学習チューターによる事前の打ち合わせを充実させることや、学校が必要とする時間帯に派遣できるよう学習チューターを確保することなどについて、推進会議で協議を重ねていくとともに、その成果を市町村にも周知していく必要がある。

2 「その道の達人」派遣事業

施策の概要

各分野の第一線で活躍する人材を「愛知県その道の達人」として小・中学校に派遣し、学級担任や教科担任等と協働して授業を行うことにより、児童生徒が通常の授業では触れることができない内容を知ったり、体験したりすることをおして、学ぶことの意義や楽しさを感じさせます。

平成 20 年度の取組

- ・「愛知県その道の達人」を 60 校に派遣
落語家、似顔絵の達人、飼育の達人、コントラバスの達人、ロボットの達人 など
- ・推進会議の開催
達人の派遣の募集、派遣の方法、達人と進める授業の在り方、事業の成果の普及、平成 21 年度の年間計画・募集内容を協議

(1) 取組の成果

子どもたちが様々な分野の達人たちの技に触れることで、幅広く好奇心が刺激され、子どもたちからは「達人の技を見て、自分も達人みたいにうまくなりたいと思った。」という声があり、様々な角度から学習に取り組もうとする意欲が増した。また、達人からは「子どもたちの真剣な態度、柔軟な発想が新鮮だった。」などの感想があった。



授業風景（落語家）

(2) 今後の課題・方向性

子どもたちの学習意欲を一層高めるために、教師と達人の事前打ち合わせを充実させるとともに、授業で高まった子どもたちの意欲を次につなげていくことが重要であり、達人と教師による授業を小中学校の教育課程に位置付けていく必要がある。また、各学校での達人の活用を促進するため、人材バンクを設けることも検討していく。

3 「あいち授業塾」推進事業（20 年度終了）

施策の概要

教員の大量退職時代を迎え、経験年数の少ない教員の割合が急激に高まる傾向にあることから、経験年数の少ない教員は、これまでよりも早く十分な授業力を身に付け、後進の教員を指導する技量を身に付けることが必要となります。

こうしたことから、ベテラン教員が指導者となり、若い教員が実践的な研究会グループ（授業塾）を創設して、授業力の向上を図り、将来の

学校や市町村の中核となる教員を養成します。

平成 20 年度の取組

やる気のある若手教員（経験年数 5 年から 10 年程度）を募集し（60 市町村から 75 人）、市町村教育委員会から推薦されたベテラン指導教員（経験年数 15 年から 20 年程度）の学校を拠点として、（研究する教科・領域の選定も含め）自主的な運営体制によるグループによる、20 日間の長期にわたる実践的な研究を行った。

- ・ 地域や校種、教科を考慮して 15 グループを構成し、実践的な研究と公開授業を実施

1 グループ：塾生 5 人、指導教員 1 人

研究テーマ：「社会に対する興味・関心を高める社会科授業」
（社会 美和町立美和中）など

(1) 取組の成果

塾生からは「確かな指導方法・指導技術、教材解釈・教材開発、授業分析・評価等の実践的な授業力を身に付けることができた。」「同年代の教員たちと授業を見せ合いながら研究を重ねる日々は、楽しくもあり、たくさんの刺激を受けながら多くのことを学び合うことができた。」などの感想が述べられ、参加した若手教員の授業力を向上させることができた。

(2) 今後の課題・方向性

これまで市町村内で行われていた授業研究について、市町村を越えた地域での授業研究を、各市町村教育委員会及び各学校の協力を得て実施し、塾生として学んだ経験を生かし、経験年数の少ない教員の指導力向上を図っていくことが必要である。

4 授業名人活用推進事業

施策の概要

子どもたちに基礎的・基本的な学力を確実に身に付けさせ、「確かな学力」を育むためには、子どもたちの学習意欲を喚起させる「引きつける授業」「分かる授業」を展開する必要があります。

こうしたことから、指導実績のある教員経験者や大学教授等の「授業名人」を学校で継続的に活用して、見本授業を行ったり、指導技術を高めるための研修を行ったりして、教員の授業力の向上を図るとともに、子どもたちの学習意欲を高めます。

平成 20 年度の取組

- ・ 小学校推進校：稲沢市立清水小学校始め 11 校
- ・ 中学校推進校：東郷町立春木中学校始め 7 校

松本青也愛知淑徳大学教授（英語科研究授業等）始め 60 人が授業を実施

(1) 取組の成果

推進校から、「教師一人ひとりの授業に、様々な形で刺激が与えられ、授業力向上への意欲が高まり、具体的な指導法を考える良い機会になった。」「積極的に授業名人に働きかける姿が見られ、受身の授業研究から能動的な授業研究に変わってきた。」といった感想が報告されており、授業名人を継続的に活用することで、教員の授業力の向上を図ることができた。また、子どもたちの学習意欲を高めることもできた。

(2) 今後の課題・方向性

今後は、推進校の取組を他校へ広める工夫をしていく必要がある。県では、推進校の取組を Web ページで公開したが、その内容をさらに充実させていく必要がある。

なお、推進校の取組の広がりがあまりない事業であり、経験の少ない教員の授業力を向上させるという目的は「あいち授業塾」と同様であると思われるので、両方の効果を十分に検証し、今後どのような施策が効果的であるか十分検討していく必要がある。

個性を生かし個性を伸ばす教育

高等学校においては、生徒の興味・関心に応じた多様な学科、コース等の設置や「愛知県版スーパーハイスクール」の指定などを行いました。

また、生涯学習情報システムでは様々な分野にわたる豊富な学習コンテンツを提供するとともに、地域においてはシニア世代のグループによる社会活動参加を促進しました。

5 「学びネットあいち」学習コンテンツ*の充実

施策の概要

県民の学習意欲の多様化・高度化に対応するため、県、市町村、大学等の生涯学習関係機関・団体が保有している学習案内情報や学習教材を、インターネットを通じて総合的に県民に提供します。

具体的には、講習会・イベント・資格取得などに関する学習案内情報、大学の公開講座の講演録、無形民俗文化財・民話の動画、美術館・博物館の所蔵資料等を提供します。

平成 20 年度の取組

19 年度に行った外部評価の結果、トップページが分かりづらい、見にくいという指摘を受け、機能的で見やすいものとなるよう改修を行った。

また、公開講座・講演録を始めとする学習コンテンツ数やその内容について、充実を図るとともに、ネットワーク機関の新規加入にも取り組んだ。

*コンテンツ：

WebサイトやCD-ROM、DVDなどの媒体で閲覧できるテキストや静止画、動画、音楽、音声といった情報全般のこと

(1) 取組の成果

技術的には、トップページの改修により見やすいものとなっただけでなく、情報内容についても、「幼児教育・家庭教育」、「次世代育成などの児童福祉」、「高齢者教育・高齢者福祉」



「学びネットあいち」トップページ（一部）

など社会状況の変化に対応した情報の提供を充実させたことで、19年度の529万件に比べ20年度は、43万件増の572万件のアクセスがあった。このため、20年度目標の年間アクセス件数540万件を達成した。

(2) 今後の課題・方向性

高度情報化社会の中で、学習コンテンツの充実などにより、アクセス件数やリピーター件数の増加を図ることで、持続的・継続的な生涯学習情報の発信をする必要がある。また、学習情報登録方法の簡素化を図ったり、情報内容を見やすくするというように、利用する側に立った改善を進めていく必要がある。なお、21年度年間アクセス件数を590万件に設定する。

6 地域の教育力向上のための活動促進事業

施策の概要

生涯学習の拠点である公民館等において、いわゆる団塊世代をはじめとするシニア世代を地域の教育活動に参画させるモデル事業を行い、地域社会における人間関係を再生し世代間交流を促すことで、地域教育力の活性化や規範意識の醸成をめざします。

平成20年度の実施

・モデル事業の委託先：

春日町シニアパワー委員会(春日町)、いも大学実行委員会(常滑市)、いきいきシニア教室実行委員会(大府市)、里の自然を守る実行委員会(安城市)、ササユリを守る会実行委員会(豊橋市)

・事業成果報告会「シニア世代まちづくりフォーラム」を開催

期日、場所：平成21年2月7日、ウィルあいち 参加者382人

内容：

モデル事業委託先の発表、5実行委員会代表者を含むパネルディスカッション、講演「おやじの腕まくり」（講師 NHK アナウンサー 村上信夫氏）

(1) 取組の成果

委託先の公民館を拠点として活動するシニア世代のグループによる地域のボランティア活動、異世代交流等の地域づくりにつながる活動が展開された。

シニアと子どもたちが関わる世代間交流の活性化や、シニア自身の意欲が喚起されたことなどが報告された。

事業成果をもとに啓発リーフレットを 4,000 部作成し、県内各市町村社会教育関係者、公民館等へ配布し、事業成果の普及啓発に努めた。



いも大学 いもの収穫

(2) 今後の課題・方向性

各地域における世代間交流と地域による子育て支援を推進するためには、シニア世代が子どもと関わるモデル事業をさらに多くの市町村で実施するとともに、シニア世代が子どもだけでなく、親世代や青年世代等とも関わる地域活動を推進する必要がある。

7 総合学科*及び普通科コース*制の設置

施策の概要

県立高校に、生徒の様々な興味・関心に応じた多様な学科、コース等の設置を進めます。

平成 20 年度取組

- ・総合学科の設置：岡崎東高校（1 学年 6 学級、人文科学、自然科学、スポーツ科学、ライフサポート、情報、環境、人間理解の 7 つの系列を設置）
- ・普通科コースの設置：刈谷北高校（国際理解コース 40 人）、岡崎北高校（コスモサイエンスコース 40 人）

*総合学科：

普通科と専門学科の教育内容を併せもち、選択科目のグループから、自分の興味・関心や目標とする進路希望に応じた科目を選択し、学習することができる。

*普通科コース：

普通科高校において、普通教科・科目を学びながら、情報、福祉、外国語などの専門科目を学ぶことができる。

(1) 取組の成果

総合学科については、その設置により、生徒の幅広い学習ニーズや多様な

進路希望に対応できるようになり、生徒の満足度が高まっている。

取得できる資格*や専門的な知識・技能を生かした進路選択をする生徒や、選択科目の履修を契機として興味・関心を抱いた進路を希望する者が増加している。そのため、各学校においては、大学、短大、専門学校、就職等を含め、進路先が多様化している。

また、普通科コースについては、目的意識をもった生徒が多く入学し、意欲的に取り組む生徒が増加している。新たに設置した外国語教育や異文化に関するコース及び理数系のコースを核として、新たな学校づくりに取り組む姿勢が見られるようになり、活力が増している。

*取得できる資格：

簿記検定、トリス検定、カラーコーディネータ検定、英語検定、その他専門学科で取得できる資格

(2) 今後の課題・方向性

社会情勢を踏まえた選択科目を設定するなど、教育課程の一層の工夫をしていく必要がある。さらに、総合学科や普通科コース設置にかかる総括を行い、新たな学科改編等に生かしていく必要がある。

総合学科設置校

| 学校名 | 所在地 | 設置年度 |
|----------|--------|--------|
| 岩倉総合高等学校 | 岩倉市 | 平成11年度 |
| 蒲郡高等学校 | 蒲郡市 | 平成15年度 |
| 鶴城丘高等学校 | 西尾市 | 平成16年度 |
| 杏和高等学校 | 稲沢市 | 平成17年度 |
| 知多翔洋高等学校 | 知多市 | 平成17年度 |
| 南陽高等学校 | 名古屋市港区 | 平成19年度 |
| 豊田東高等学校 | 豊田市 | 平成19年度 |
| 岡崎東高等学校 | 岡崎市 | 平成20年度 |
| 瀬戸北高等学校 | 瀬戸市 | 平成21年度 |

8 「愛知版スーパーハイスクール」の指定等

施策の概要

より高度な知識・技能等を習得するとともに、魅力と特色ある県立高校づくりをより一層進めるために、「愛知版スーパーハイスクール」の指定などを進めます。

平成20年度の取組

- 知の探検講座：名古屋大学始め6講座（参加者142人）
- 技の探検講座：豊田自動織機始め4講座（参加者36人）
- スーパーハイスクールの指定
 - ・教育課程研究：
 - 旭丘高校「高校理科における実験・観察の新しいスタンダードモデルの開発」始め5校
 - ・文化部活動：名古屋南高校（吹奏楽）始め4校
 - ・運動部活動：愛知商業高校（ハンドボール）始め6校